

令和6年2月22日

総合支援課

## 令和5年度(2023年度)心のアンケートの結果について

### 1 目的

「熊本市いじめ防止基本方針」に基づく「いじめの防止等(いじめの防止、いじめの早期発見及びいじめへの対処をいう。以下同じ。)のために本市が実施する施策」として、熊本市立小中高等学校及び特別支援学校の児童生徒を対象にして、無記名のアンケート調査を実施することにより、各学校が児童生徒の思いに寄り添い、いじめのない、すべての児童生徒が安心して、楽しく学校生活を過ごせる学校づくりに取り組むとともに、教育委員会におけるいじめの防止等のための具体的な対応策を検討・実施する資料とする。

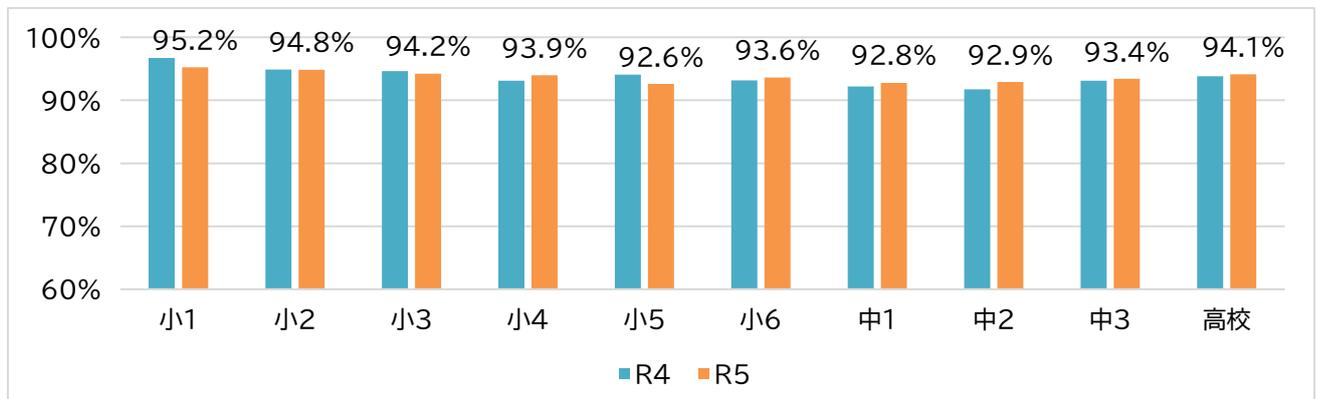
2 調査期間 令和5年11月13日～12月末日

3 調査対象 熊本市立小中高等学校・特別支援学校のすべての児童生徒  
(小学生:40,217人、中学生:19,515人、高校生:1,600人)

### 4 調査結果

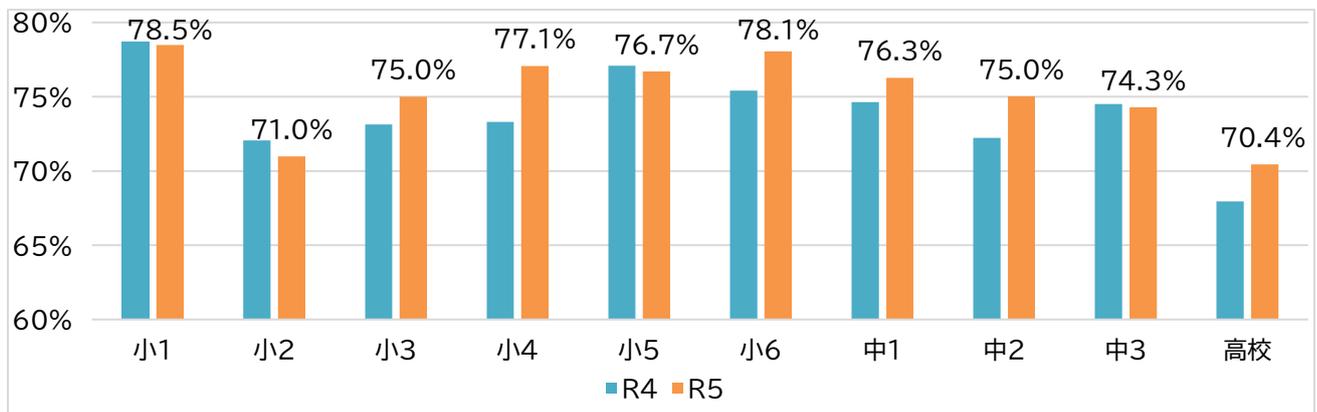
#### 【問1】学校は楽しいですか

(令和5年度の楽しい・まあまあ楽しいと答えた児童生徒の割合)

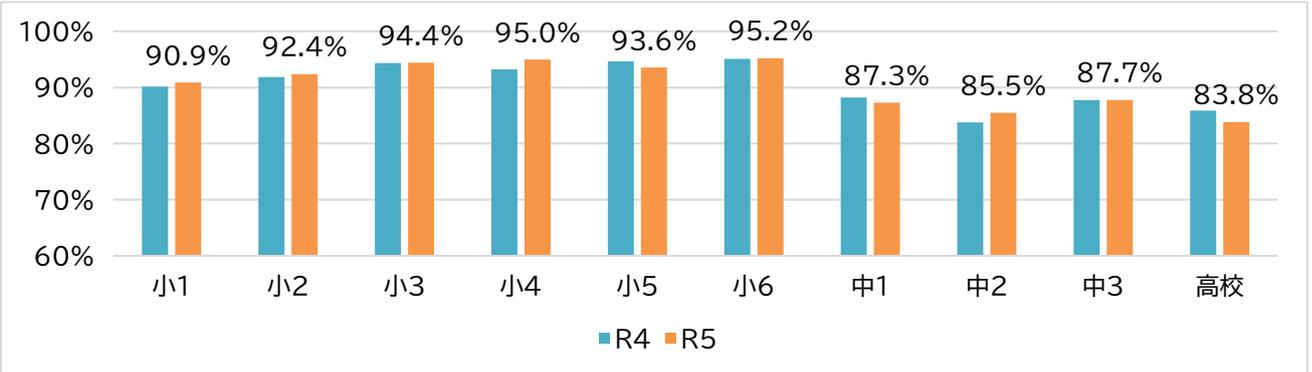


#### 【問2】授業や学級の役割など、学校生活の中で誰かの役に立っていると感じることはありますか。

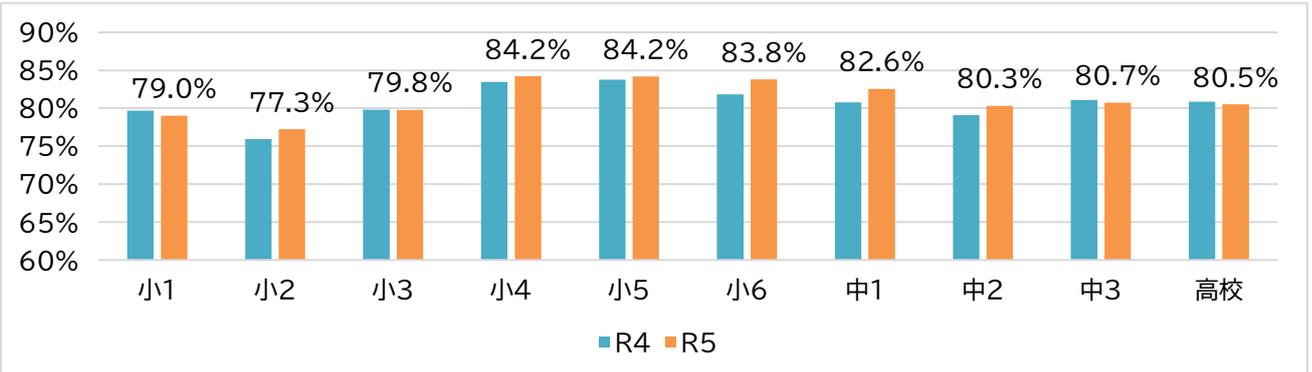
(令和5年度の役に立っている・まあまあ役に立っていると答えた児童生徒の割合)



【問3】 授業がよくわかりますか。(令和5年度の割合【問15】まで同様)



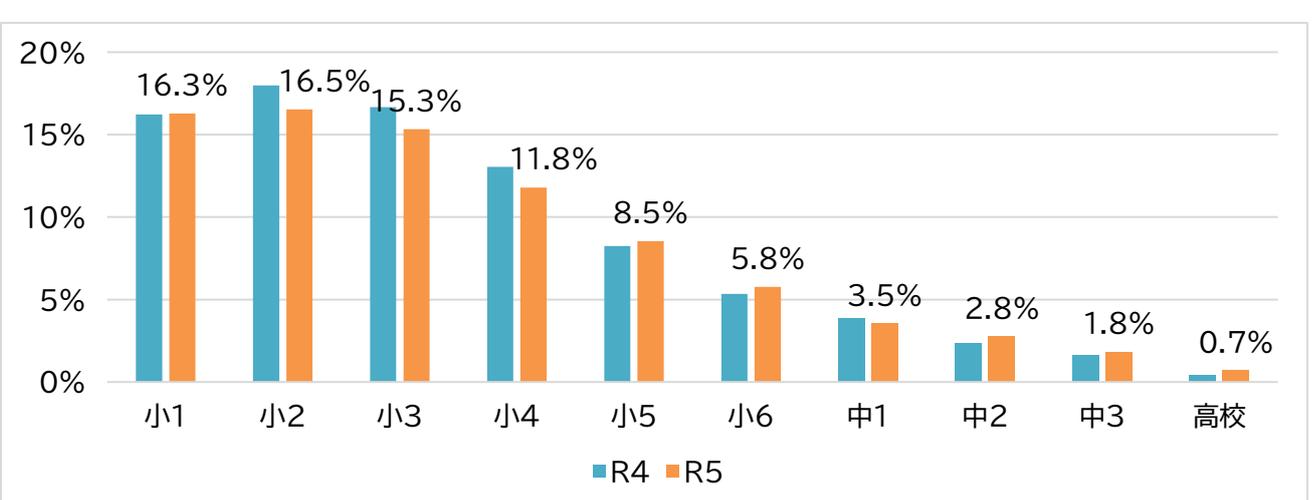
【問4】 スポーツや音楽、趣味など、自信のあることや自慢できるものがありますか。



【問5】 今の学年でいじめられたことがありますか。(人数)



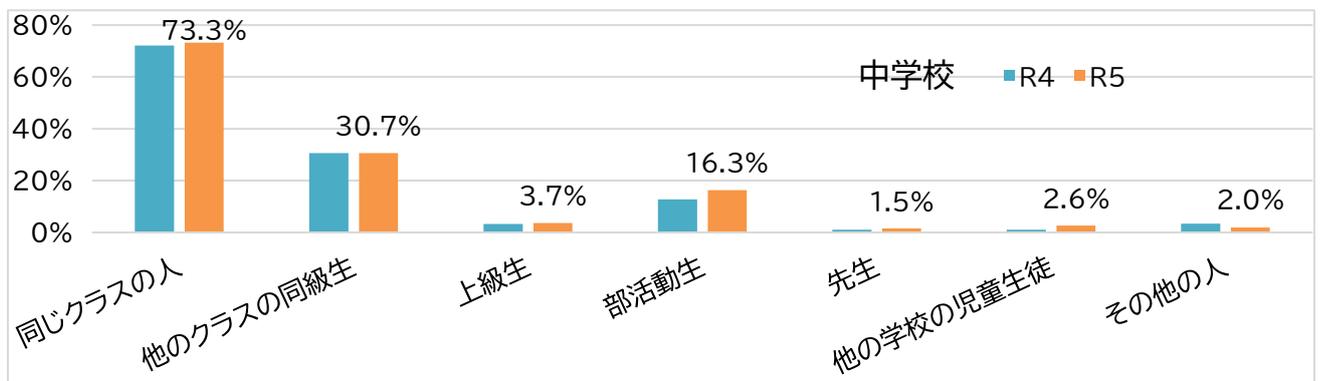
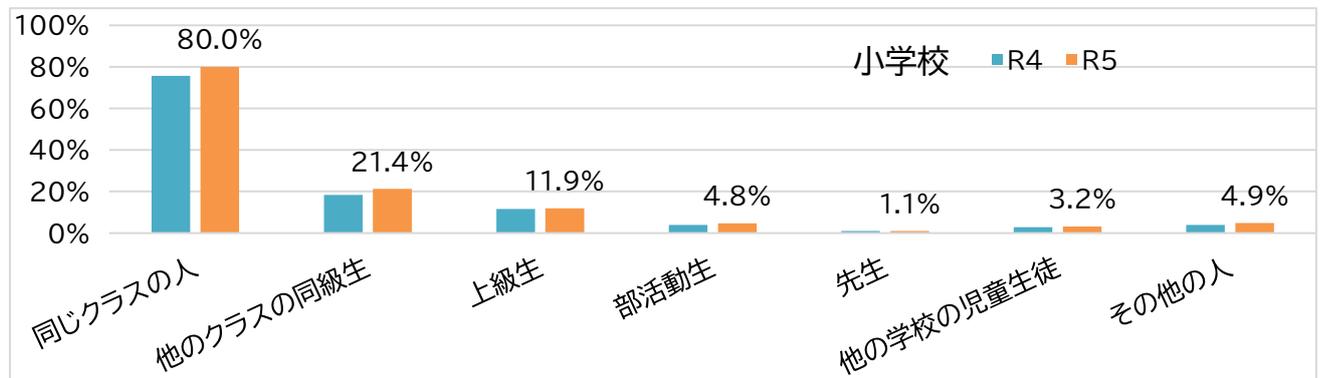
今の学年でいじめられたことがありますか。(割合)



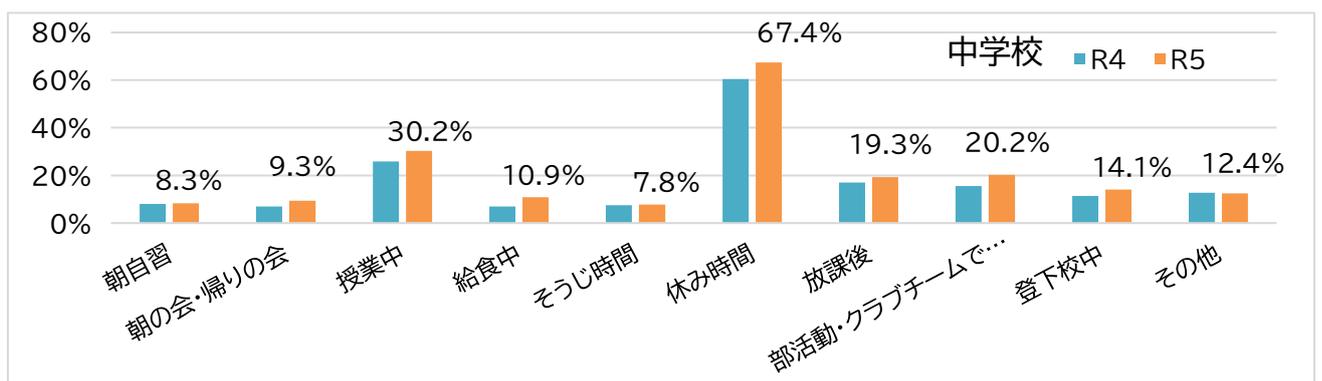
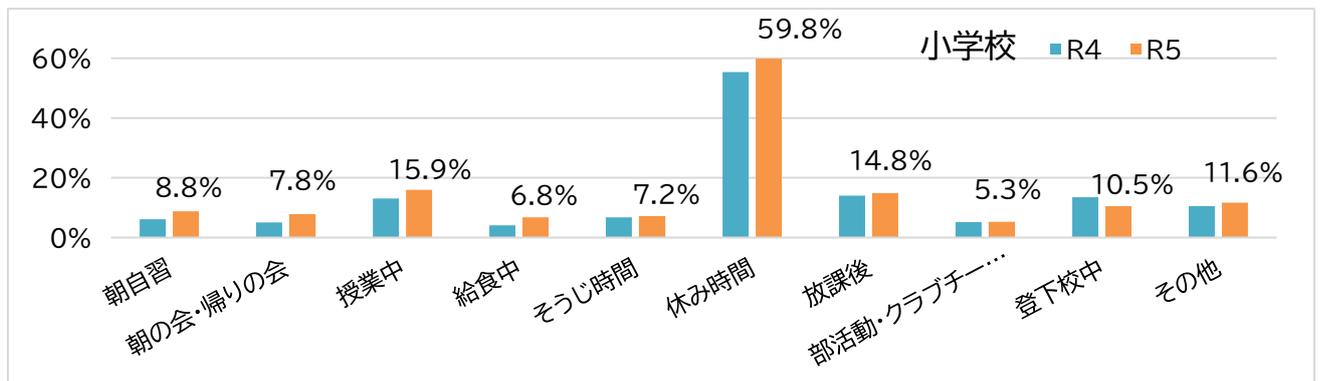
【問6～問9】は【問5】のいじめられたことがあると答えた児童生徒  
(小学校 4636 人、中学校 460 人)を対象とした割合

※高校は対象生徒が少ないため結果から省いている。

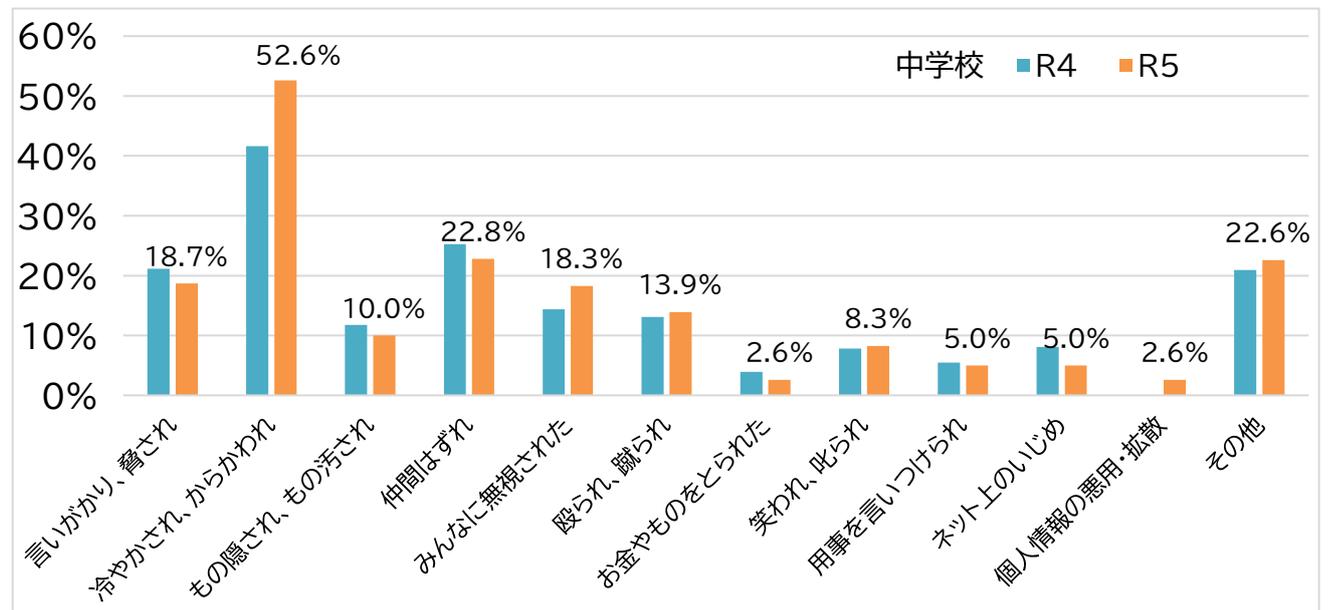
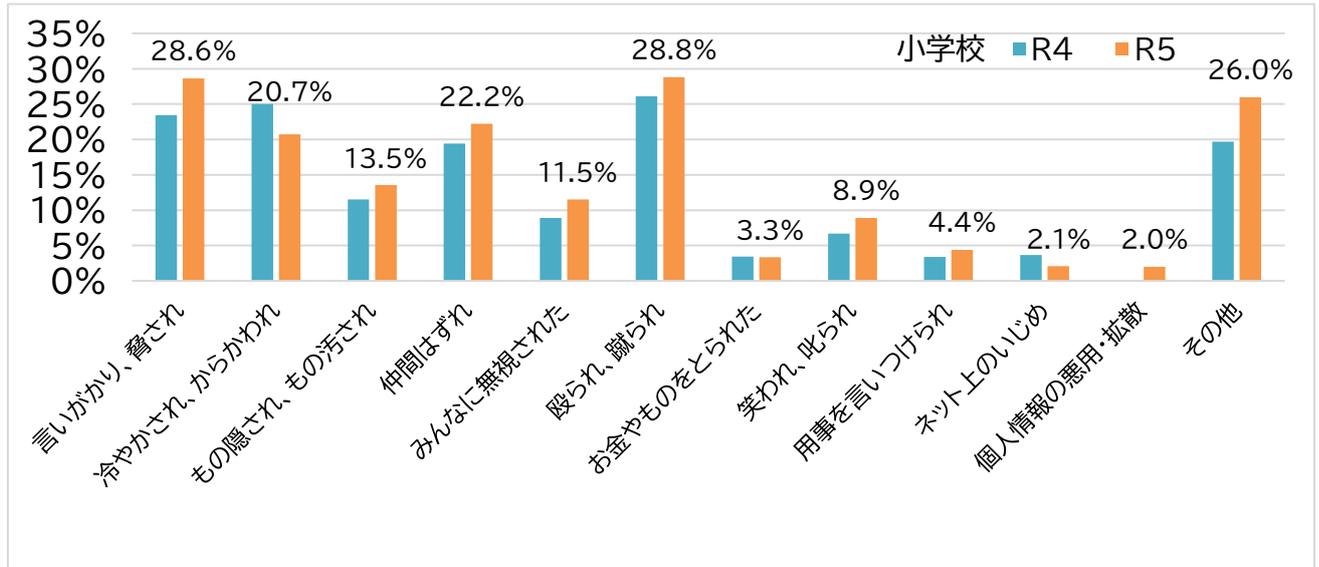
【問6】 誰からいじめられましたか。※複数回答



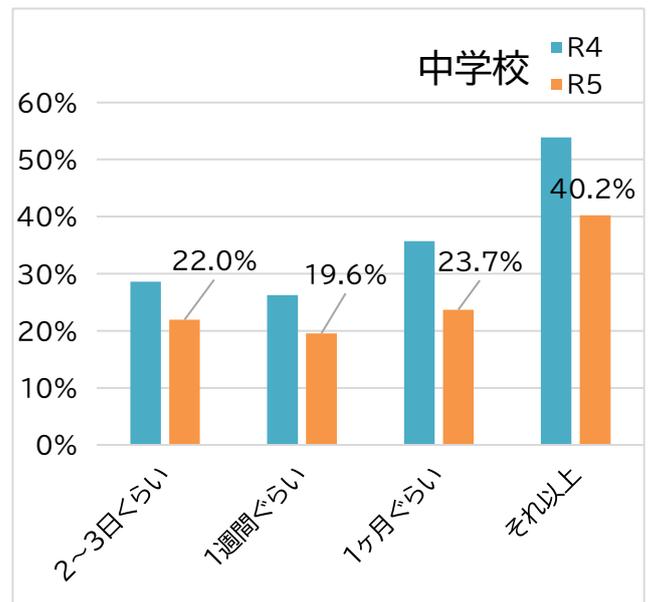
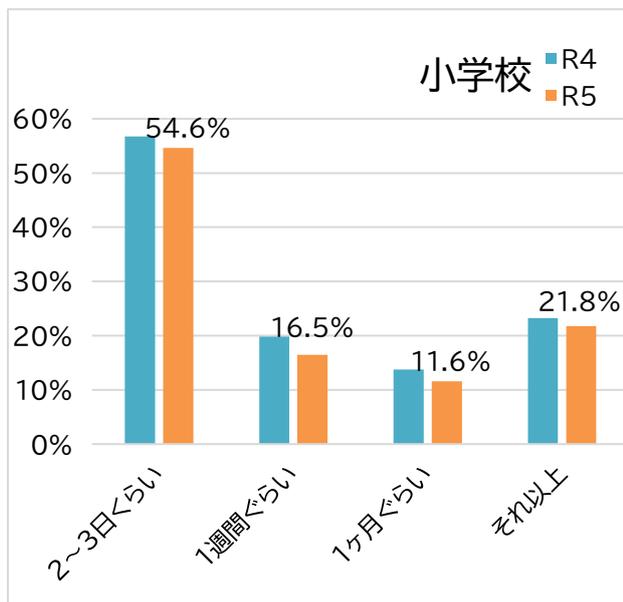
【問7】 いじめがどのような場面で起こりましたか。※複数回答



【問8】 どんないじめを受けましたか。※複数回答

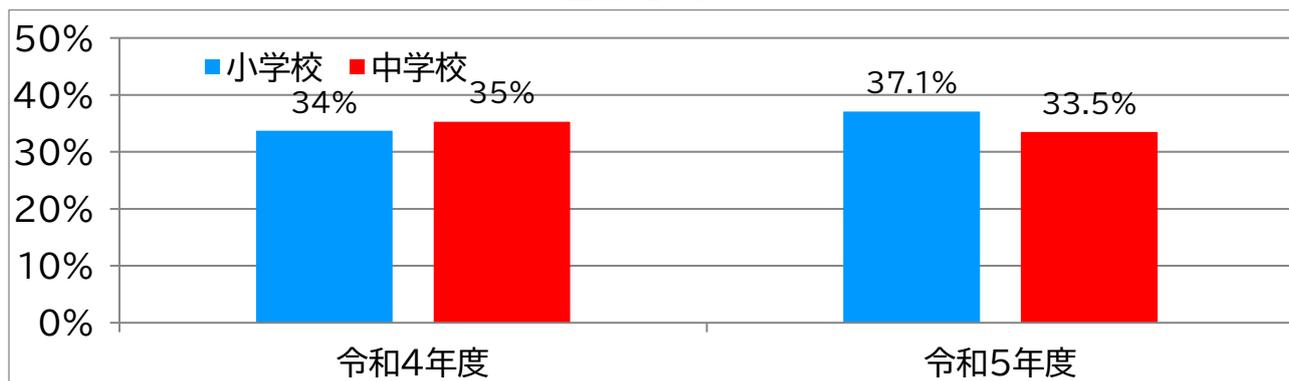


【問9】 いじめはどのくらい続きましたか。※複数回答

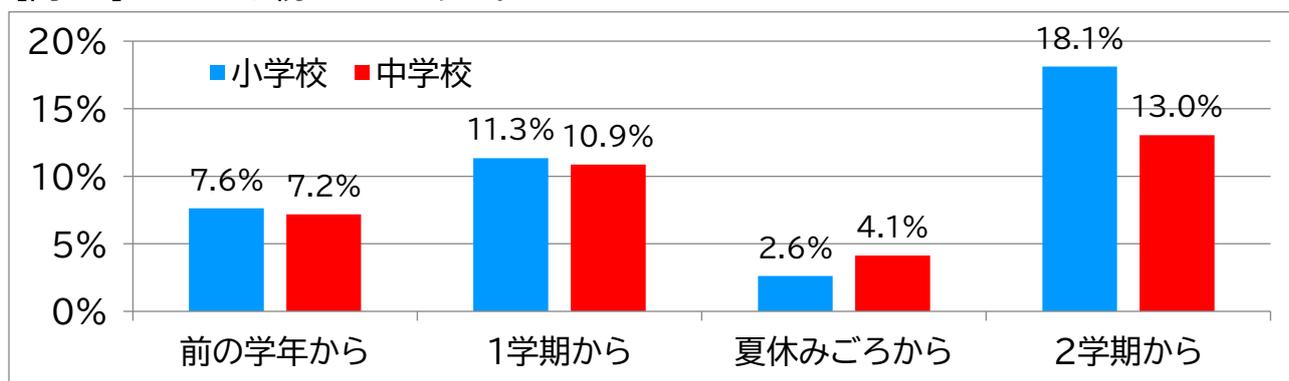


【問10】 今もいじめは続いていますか。

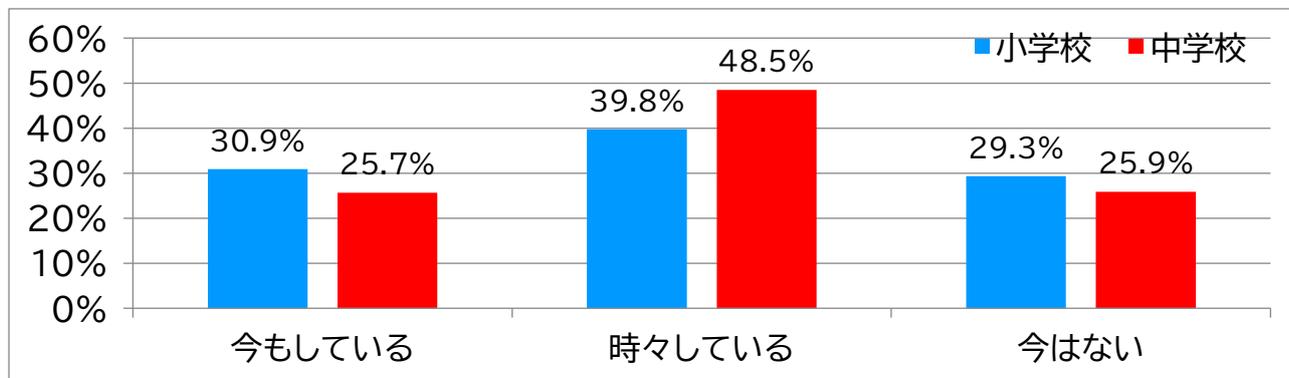
(今もいじめが続いていると答えた児童生徒の割合)



【問11】 いつから続いていますか。

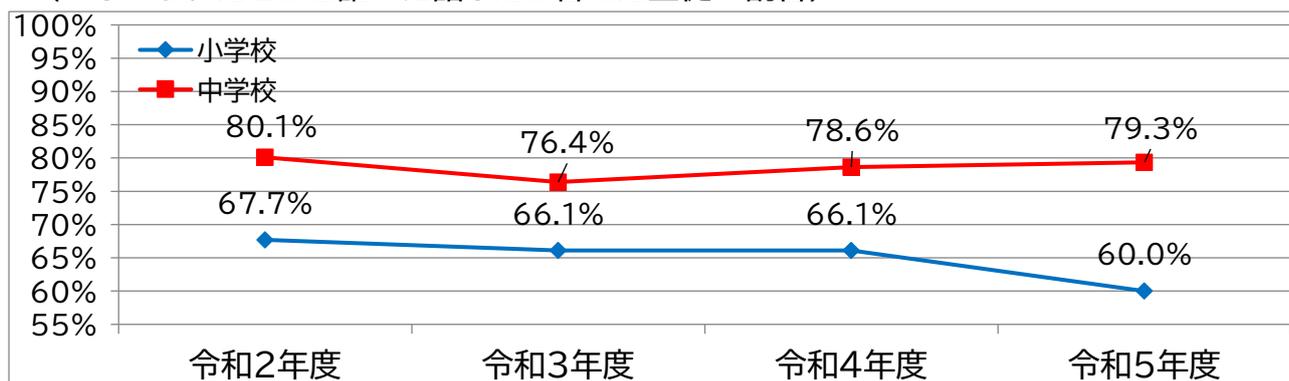


【問12】 今でもいやな思いをしていますか。

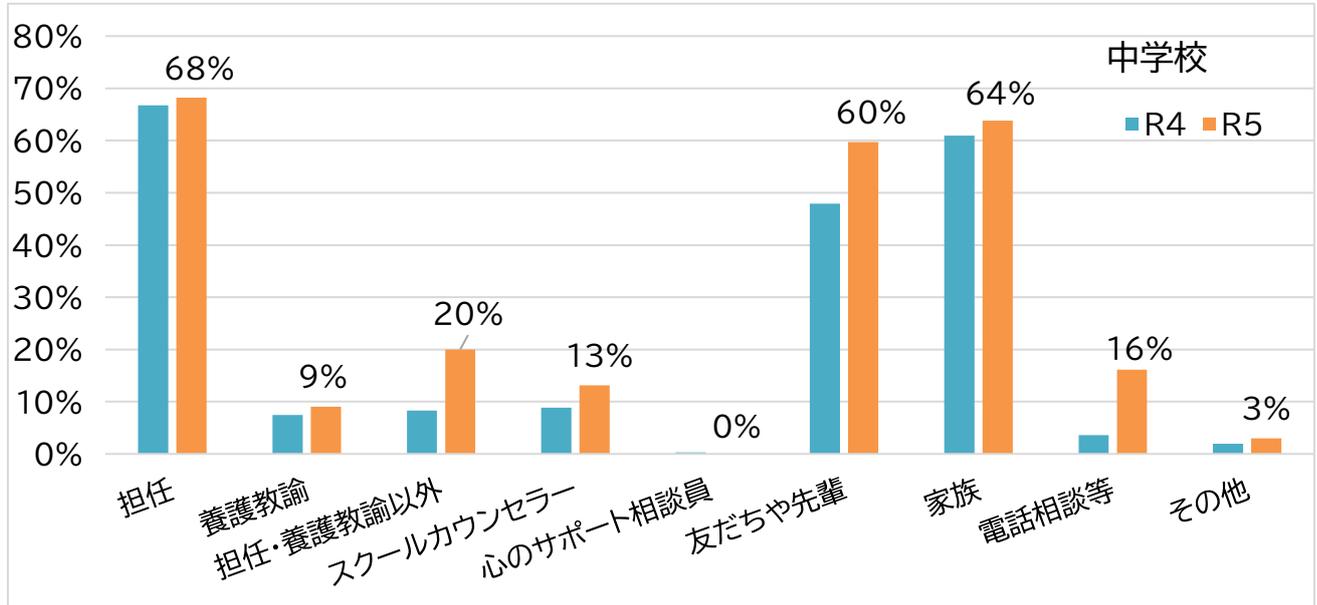
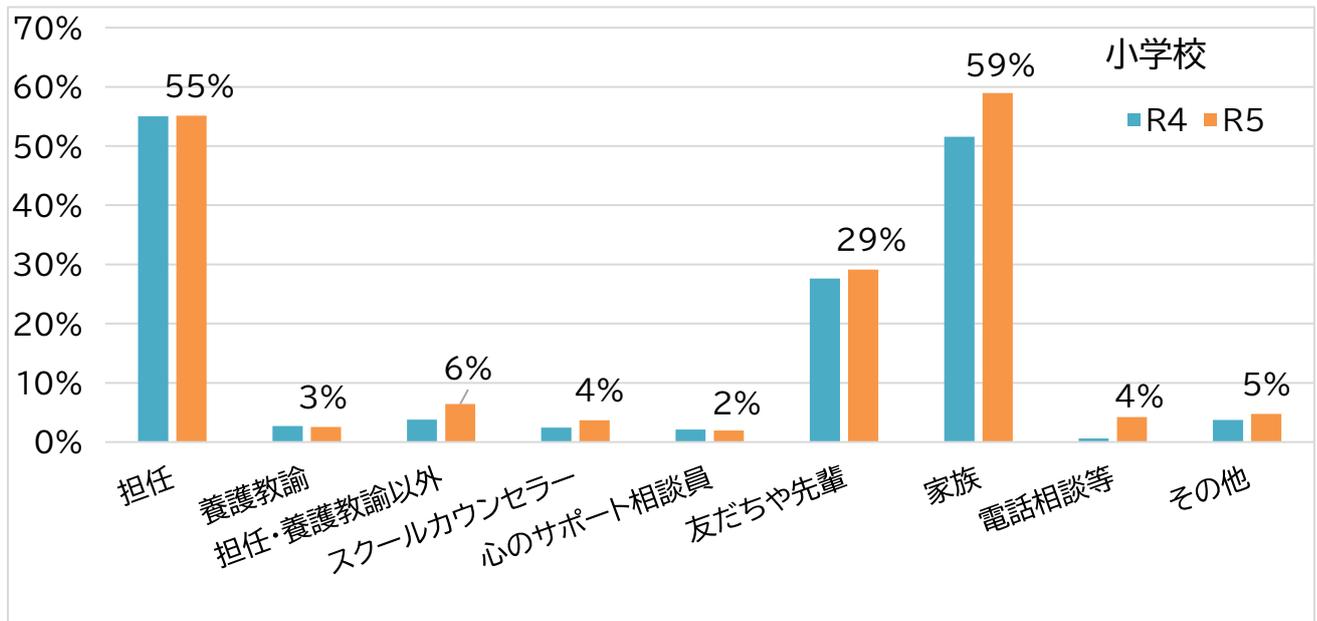


【問13】 いじめられたことを誰かに話をしましたか。

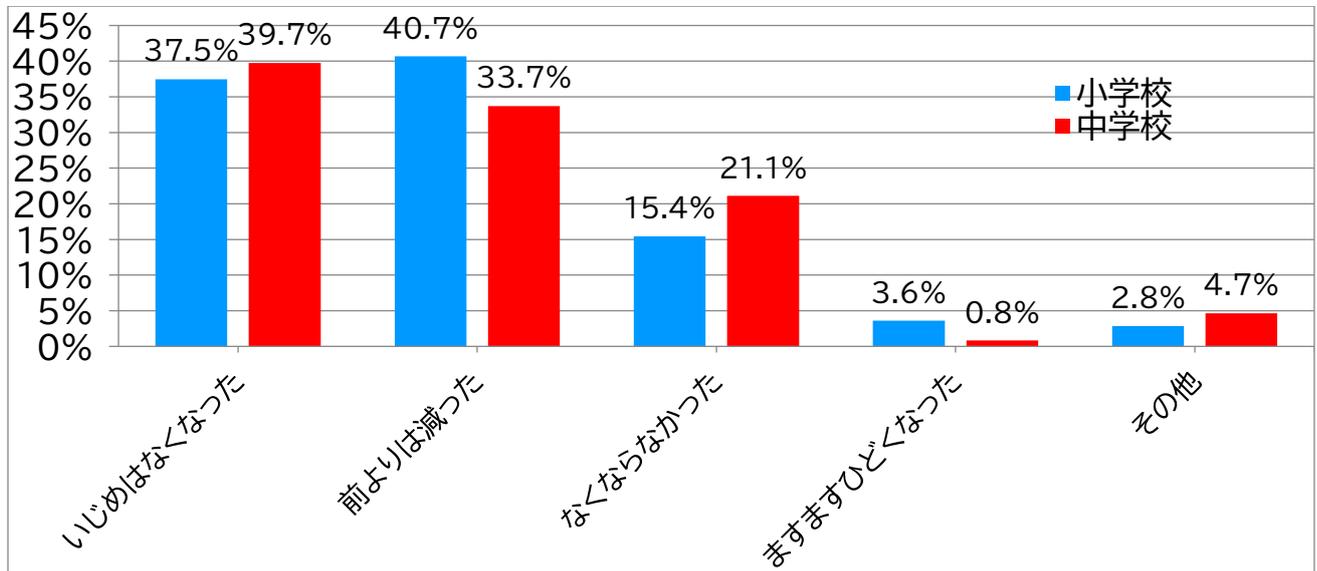
(いじめられたことを誰かに話したと答えた生徒の割合)



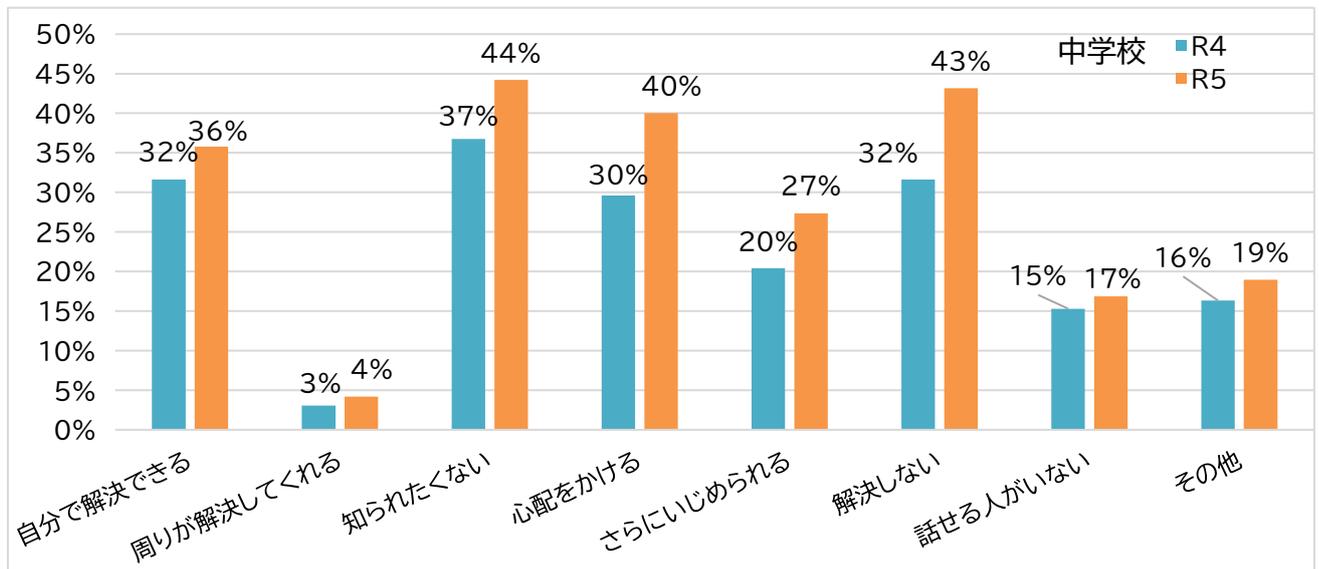
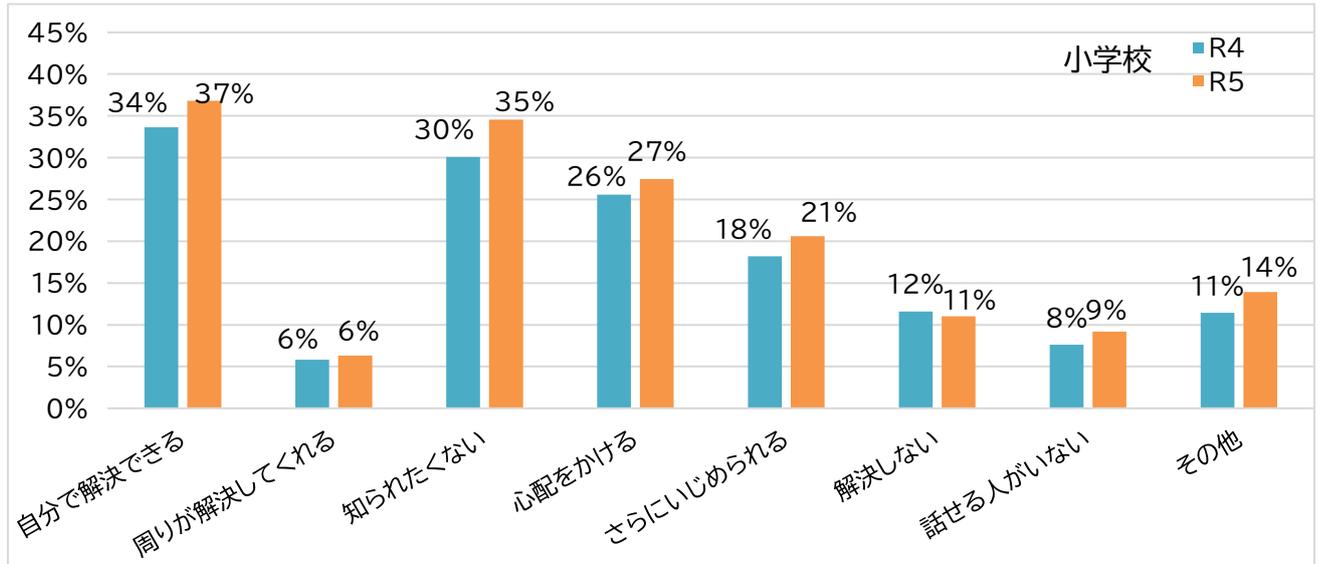
【問14】 誰に話をしましたか。※複数回答



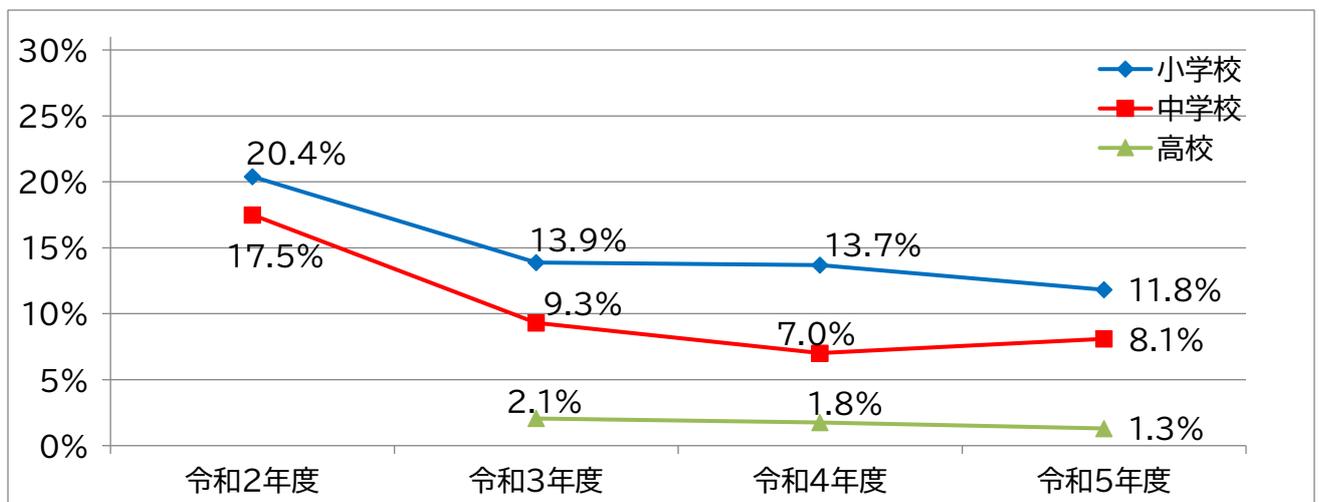
【問15】 話した結果どうなりましたか。



【問16】 なぜ話をしなかったのですか。※複数回答

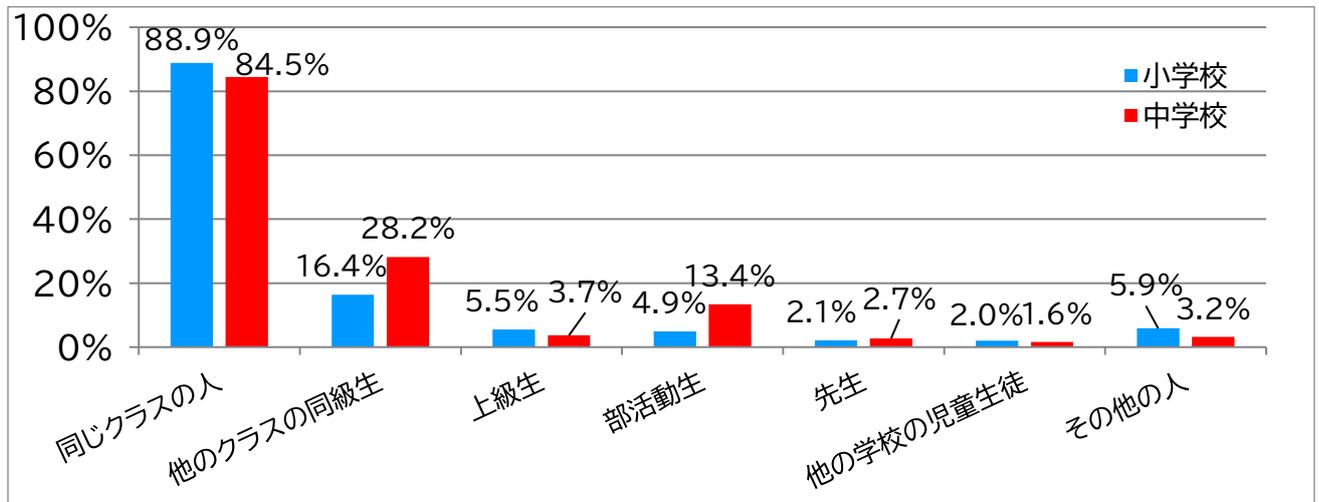


【問17】 今の学年になって誰かに嫌なことを言ったり、したりしたことがありますか。  
(嫌なことを言ったり、したりしたことがあると答えた児童生徒の割合)



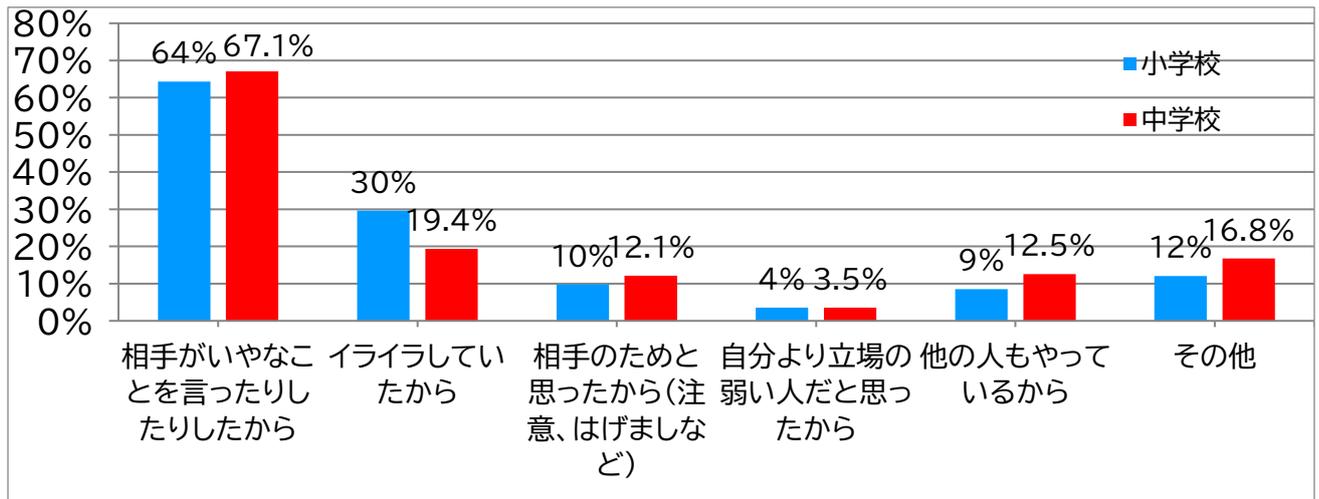
【問18】 誰にいやなことを言ったりしたりしたか。※複数回答

(【問17】で誰かに嫌なことを言ったり、したりしたことがあると答えた児童生徒が回答)

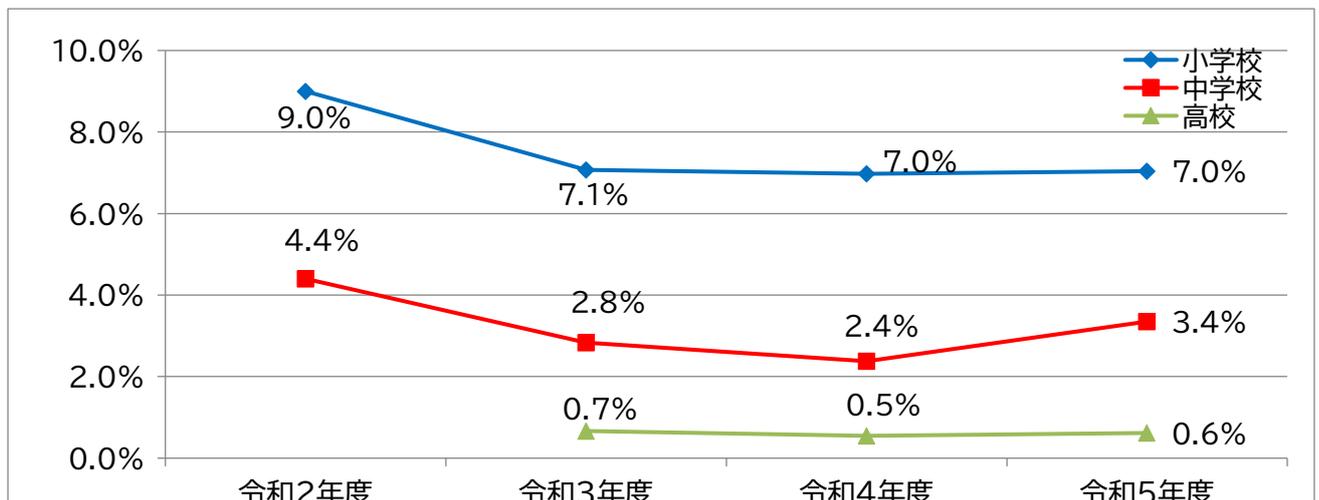


【問19】 なぜ相手がいやと思うようなことを言ったりしたのか。

(【問17】で誰かに嫌なことを言ったり、したりしたことがあると答えた児童生徒が回答)

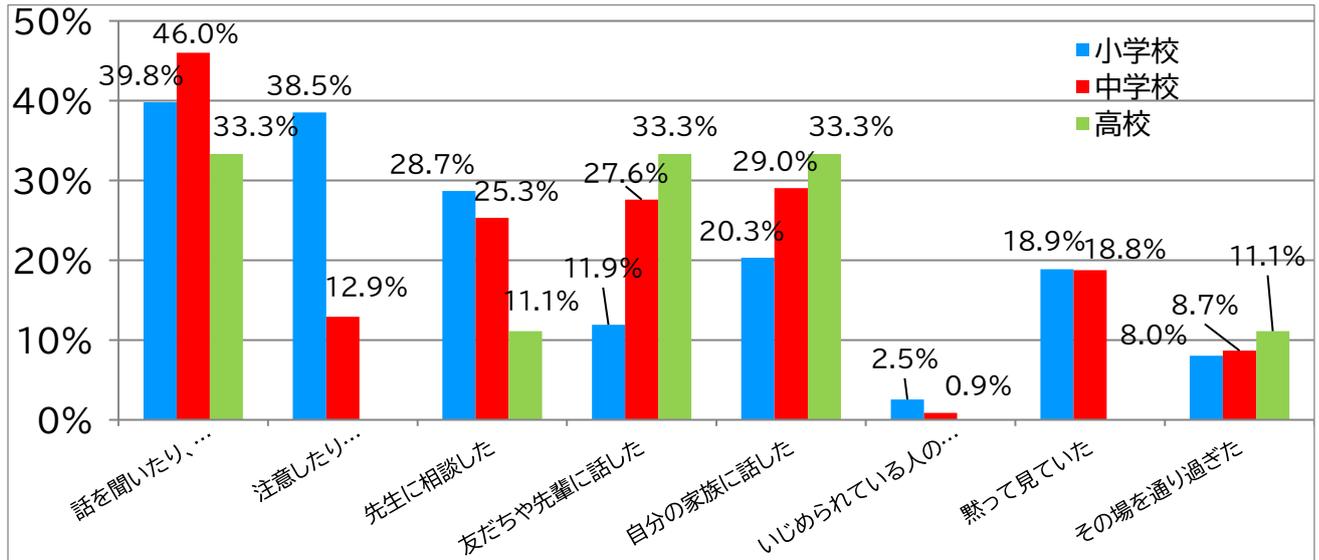


【問20】 今の学年になって誰かがいじめられているのを見たり聞いたりしたことがありますか。(見たり聞いたりしたことがあると答えた児童生徒の割合)

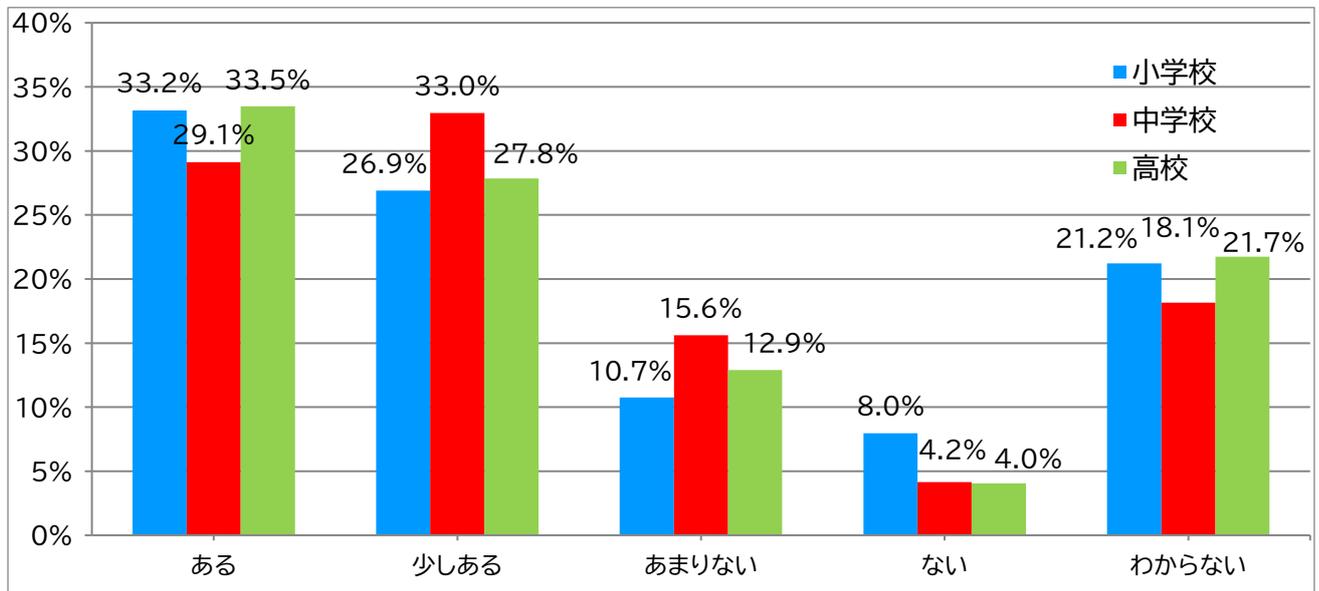


【問21】 いじめを見たり聞いたりしたとき、どうしましたか。※複数回答

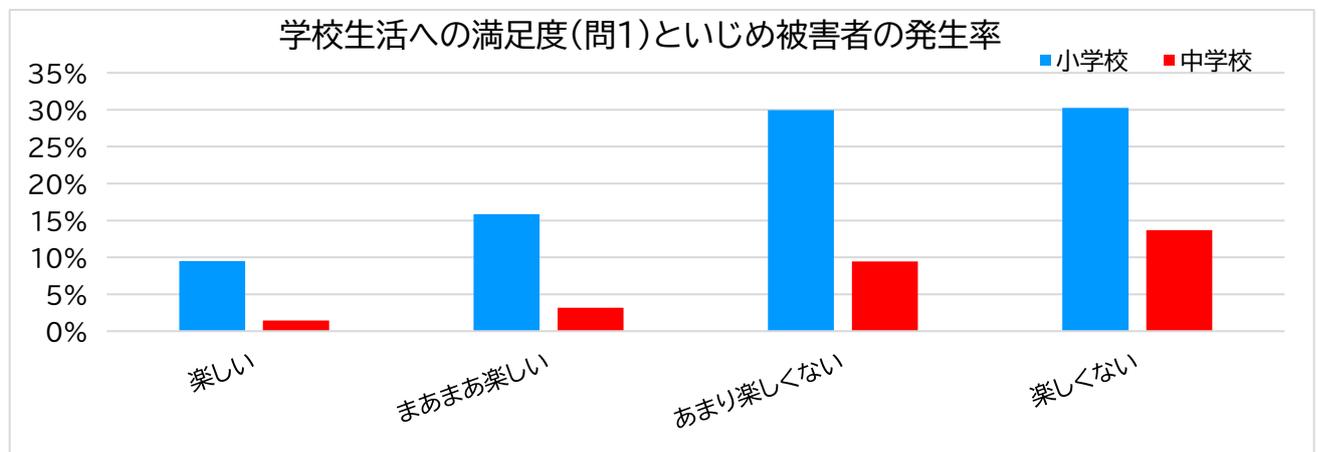
(【問31】でいじめられているのを見たり聞いたりしたことがあると答えた児童生徒が回答)

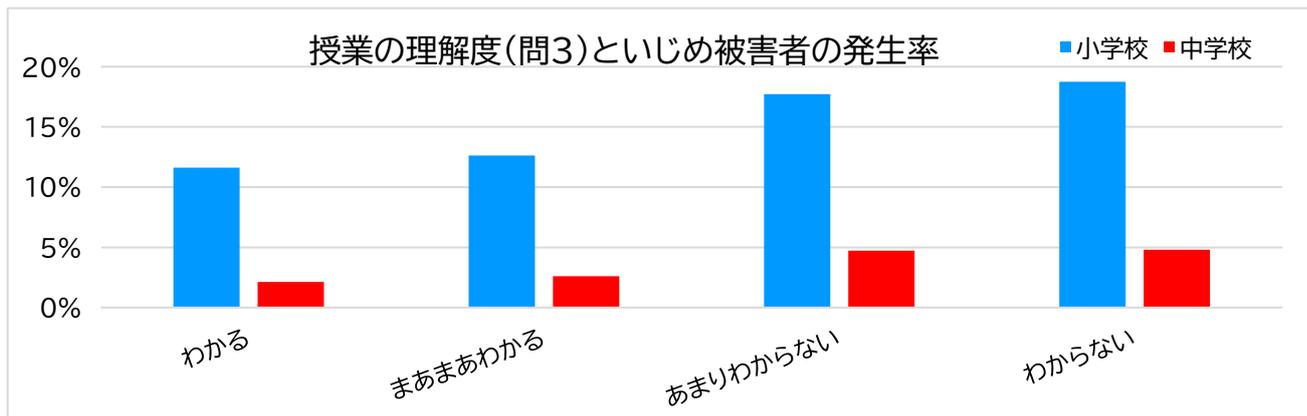
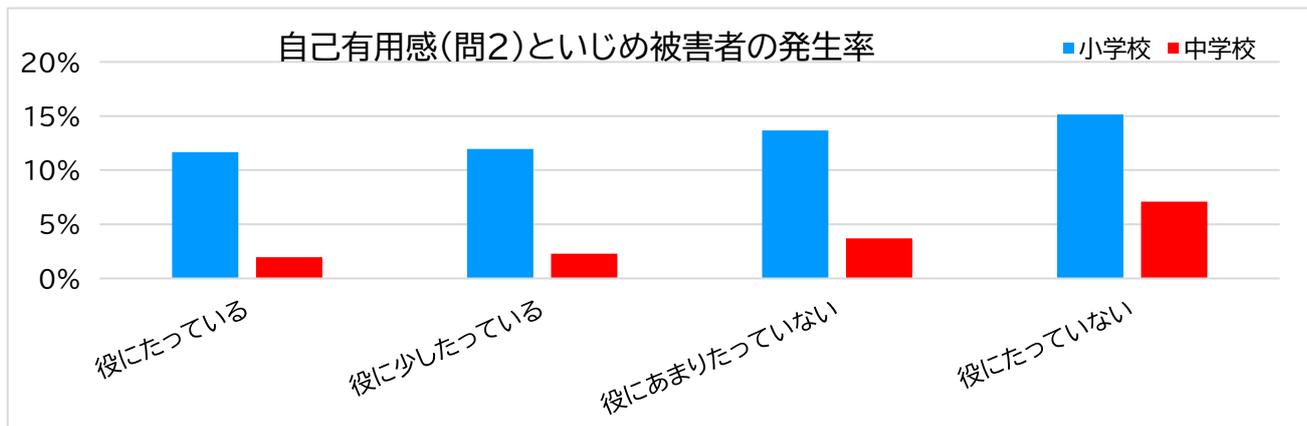


【問22】 あなたのクラスに「いじめをゆるさない」という雰囲気はありますか。

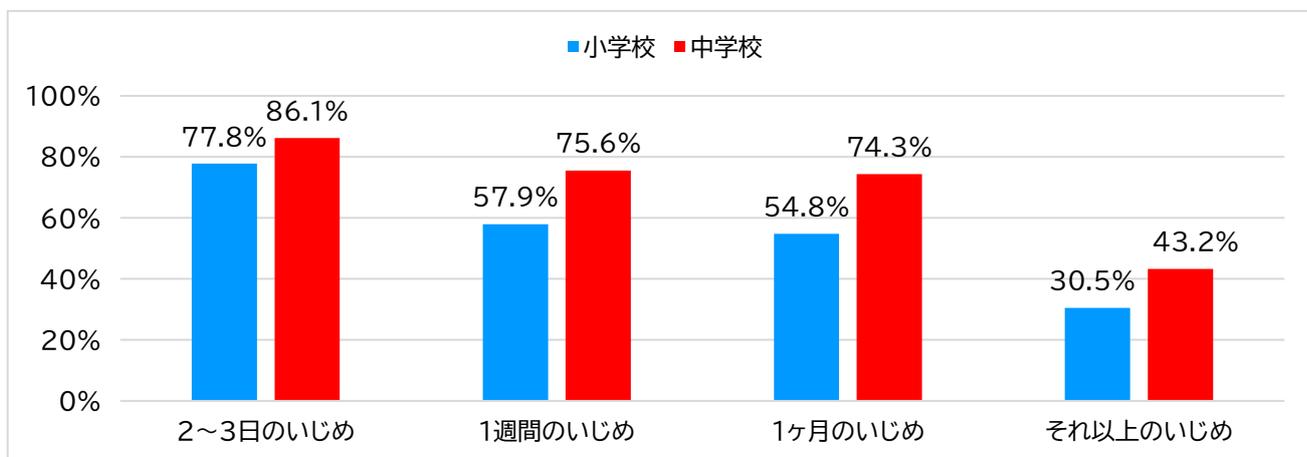


【分析1】 いじめを受けた児童生徒の学校生活との相関関係





【分析2】 いじめの受けた期間ごとのいじめが続いていないと回答した児童生徒の割合



5 アンケート結果の考察

《学校生活といじめの相関関係について》

【分析1】では学校生活といじめの相関関係を調べた。

学校は楽しいですかという問いに肯定的な回答をした児童生徒に比べ、否定的な回答をした児童生徒の方がいじめを受けた割合が高く、倍以上の発生率があることが分かった。

授業の理解度、自己有用感についてもいじめの発生率との相関が見られた。

→学校は毎月のきずなアンケートで、学校生活の満足度や自己有用感が低くなっている児童生徒はいじめの出現率が高くなっていることをあらためて認識する必要がある。

《いじめの早期発見・早期対応について》

【分析2】では早期対応と解消率について調べた。

小学校、中学校ともに「2～3日のいじめ」と「1か月より長くなっているいじめ」を比較すると、解消率が半分に下がっていることがわかる。

→1ヶ月というラインを越えると、いじめの解消率が50%以下になるため、月に一度行う「きずなアンケート」の結果を注視しておく必要がある。

《いじめの解消について》

「いじめが続いていない」と答えた児童生徒のうち「ときどき嫌な思いをしている」「嫌な思いをしている」と回答した者が小学校39.3%・18.0%、中学校52.0%・12.1%いることが分かった。

→いじめに係る行為自体が止んでいると捉えても、いじめを受けた児童生徒の心のケアを長期的にしていく必要があると考えられる。

また、児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査の「いじめの解消率」はR4、R5ともに90%近くあり、【問10】でいじめが続いていないと判断している児童生徒は70%弱となっている。

→学校の見立てと児童生徒の認識にずれが生じている可能性があるため、いじめを受けたことがある児童生徒は継続的な見守りが必要であると考えられる。

《いじめの相談について》

いじめられたことを相談していないと答えた児童生徒のうち「自分で解決できる」「周りが解決してくれる」以外の理由で「相談したくてもできなかった児童生徒」は小学校1310人(28.3%)、中学校79人(17.2%)いる。

→安心して相談できる環境づくりや仕組みが求められる。

## 6 課題解決に向けた取組

○いじめの未然防止のために

生徒指導の実践上の視点(「自己存在感の感受」「共感的な人間関係の育成」「自己決定の場の提供」「安心・安全な風土の醸成」)を活かした学級づくり・授業づくり等を日常的、継続的に実践していけるよう様々な研修を通して周知していく。

○早期発見、早期対応、継続的な見守りのために

毎月実施している「きずなアンケート」や定期的な教育相談の充実を図り、SCやSSWを交えた生徒指導部会や支援部会での情報共有等によっていじめを早期に見出し、指導や援助、継続的な見守りにつなげる。

また、いじめ根絶強化月間で各学校に実施をお願いしているSOSの出し方に関する教育の推進や、熊本市教育センター研究員がしている関係機関との連携を目指した取り組みのさらなる周知を行い、相談したくても相談できない児童生徒を減らしていく。

○相談できる環境づくりと相談窓口の周知・連携

チーム学校として、相談しやすい環境づくり、誰にでも相談できる雰囲気づくりが重要である。現在、たくさんの相談機関や相談窓口が設置されているが、児童生徒のみだけでなく、保護者や教職員も含めた効果的な利用へと結びつく周知と、関係機関と更なる連携を図る。